

第21回 曾於市社会福祉大会

福祉作文 2025

優秀賞一覧

目次

学校名	学年	氏名	作品名	ページ
櫛小学校	6 年	しいや 椎屋 りょうすけ 諒 亮	思いやりを伝えたい	P1～3
柳迫小学校	5 年	ふくもと 福元 ゆうせい 佑誠	みんなと給食を	P4～6
柳迫小学校	4 年	さえぐさ 三枝 はつき 初希	福祉って何だろう	P1～3

- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

(月 日 曜日)

思いやりを伝えたい

梶小学校 六年 椎屋 諒亮

ぼくは、学校の道徳の授業で「思いやり」について学習した。ぼくは、思いやりについて家で調べてきた。ぼくの思う思いやりとは、「相手の気持ちを考えること」と思っていた。意味は、「その人のためを思っている」と思っていた。気を遣うこと。相手の気持ちや立場を理解し、気遣いする心。そしてその行動ややさしさや配りよと書れていた。ぼくが思っていたのは

は近いけど、もっと複雑だと感じた。

ぼくが今できている人を助けることは、算数の時間だ。ぼくは算数が好きだ。数学や計算といったことはもちろんだけど、分からないところがある友達に教えるのが好きだ。困っている人がいたら助けてあげたいとぼくは思う。教えるはとしても難しい。ぼくの仲では分かっていても、それが友達に伝えるのは不安だ。やりかたのコツを伝えるなどぼくになり工夫している。そしてぼくも分からないと

No.

- 3 詩はどの行も、ばんめいマスから書き頭をそろえましよう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

(月 日 曜日)

ころがある。と教えてくれる大好きな友達がい
る。

ぼくは母によく、「やさしすぎる」と言わ
れる。でも、ぼくの「やさしさ」は、相手の
気持ちや立場を理解し、気遣いする心意味で
はない。ぼくは、人にえんりやしすぎている
ということだ。周囲の意見に合わせようとす
ることが多い。相手の気持ちを考えすぎなど
ころもある。

今、ぼくが心がけていることは、相手の気
持ちを考慮すること、言葉遣い、感謝する心を
もつということだ。友達といっしょにいと
仲が良いばかりに、口調が強くなったりよび
すてで呼んだりしてしまうことがある。でも
怒った口調で話しかけるのはぼくは嫌だ。だ
から、一つ一つの言葉の重みを考えて友達に
伝えていきたい。相手の気持ちを考えている
つもりでも、友達の意見に左右されたり流さ
れたりするときもある。そんなときは少し、
しんこきゅうをして、なぜこんな口調になっ

No.

- 3 詩はどの行も、はみめのマスから書き頭をそろえましよう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げで書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ） 月 日 曜日

てしまったのか、相手の気持ちを考えきくと気持ちを書いた。そして、助けをもらった。ありがとうと感謝の言葉をきちんと伝えていきなり。

現在、ぼくは六年生だ。六年生は男子が七名で、みんな個性豊かな。ぼくの友達だ。その中には、自信をもって発言できる友達、思いやりがある友達もたくさんいて、ぼくはその友達に負けていると感えている。ぼくも自分の意見を堂々と言え、自分になりたい。そして思いやりの気持ちをもち友達への感謝の気持ちを書いた。なりたい自分を目指し、残りの小学生生活を悔いのないものにしてい。

No.

- 3 詩はどの行も、はみだのマスから書き頭をそろえよう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げで書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

(月 日 曜日)

みんなと給食を

曾於市立柳迫小学校 五年 福元 佑誠

みなさんは、ふ段教室で楽しく友達と給食を食べていますか。

ぼくには、牛にうとたまご、ピーナツ

の食物アレルギーの他にも四つのアレルギー

があり、そのため、去年まで給食は校長

室で食べていました。また、給食のメニュー

に合わせて母が作ってくれたお弁当を食べて

いました。でも、去年の秋から給食センター

が新設され、パン以外のアレルギーの対応がで

きるようになりました。そして、今年の春か

らはみんなといっしょに給食を食べられるよ

うになったのです。

これまでも、ぼくは三回アレルギー症状が起

きて、救急はん送されました。原因は様々で

す。そのときは、いつも親がそばにいてくれ

て、通報したりエピソードを打ってくれたりし

て、事なきを得ました。しかし、学校には親

はいません。だから、自分の命はまず自分で

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

(月 日 曜日)

守ることが大切なのです。

そんなぼくが、今年から給食を食べるよう
 になっ、たくさんのごとに気を付けていま
 す。症状が出にくいように手と口にワセリン
 をぬっ、ています。また、みんなともきょりを
 とっ、給食を食べるようになっていきます。また、
 みんなよりも先に、じょきよ食べないものを
 ついでいます。おかわりじゃけんも遠くか
 ら参加しています。ですが、ぼくが教室で給
 食を食べることができているのは、たくさん

の人の協力があるからです。例えば、給食を
 教室で食べ始める前に、両親や学校の先生た
 ちは何回も打ち合わせしてくださいました。
 どうしたら安全に給食を食べることができ
 るか考えるのは、難しか、たと思います。また、
 給食センターの人は、ぼくに合っ、たじょき
 食を作っ、てくださいます。保健室の先生
 も細かくこんだて表を確認したり、布巾をあ
 けたりしてくださいます。それに、学級の友
 達もとても気を付けて、牛乳パックを水道で

No.

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

(月 日 曜日)

洗わずにたたんで捨てたり、給食時間は一
トール以上きまりをとるようになりして
れていきます。また、給食がこぼれたとき
ぐに知らせてくれます。このように考えると、
ぼくがこうしてみんなと給食を食べることが
できているのは、周りの人たちの協力がある
からです。

ぼくには、弟がいて、弟にもアレルギーが
あります。弟は負荷を続けてちよつとずつ良
くなつてきています。ぼくも負荷をかけ少し

良くなつてきてはいませんが、アレルギーがな
おるにはほど遠く、因果なことです。ですが、
これから自分のアレルギーをなおす努力を
していきたいと思っています。アレルギーがある
と大変なことは多いけれど、楽しく過ごせ
ていることを伝え、他のアレルギーをもつてい
る人たちをばげましていこうと思っています。

N6.

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 だいくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは、二ぎようめに書き、文しうは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さけて書きはじめ、だんらくにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

(月 日 曜日)

福祉って何だろう

四年 さえぐさはつき

「四年生の総合では、福祉について学習しま

す。

と、先生が言いました。わたしは、福祉って

何だろうと思いました。そこで、みんなてタ

グレッツトで福祉の意味を調べました。すると、

「ふだんのくらしをしあわせにする」という

意味が分かりました。

次に、福祉から思いつく言葉を書いていき

ました。福祉から、かいごし、ようがい、目

が見えない、耳が聞こえない、点字、点字ブ

ロツク、ほちようきなどの言葉が出てきまし

た。また、福祉↓もうどう犬↓ベルナ↓ベル

十のしっぽという言葉も出てきました。ベル

十のしっぽとは、本の名前です。ベル十とい

うもうどう犬が、目のふ自由な人が安全に生

活できるようにいっしょにすごしていきます。

それから、目が見えない人の体けんをしま

した。アイマスクをつけたら、目の前が真っ

- 4 とは、それぞれ一字にきえて、「マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

20×20



- 1 だいたくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは、一きようめに書き、文しうは、三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくことにきようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも二ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

暗になりました。二人組でペアになって、教室からろう下を通って自分の席までもどりました。どこにだんさかなるか分からなかつたので、とてもこわかったです。目がふ自由な人は、これがずとつづいて、道を歩くときは、白じょうを持て歩くそうです。だけど、あたしは、白じょうだけではこわいと思います。白じょうがなければ、道を歩くときに、前にしうが、い物があつたら、よけられます。でも横だん歩道をわたるときに、青になつてもまだ赤かと思つてわたれなかつたり、反対に、まだ赤だけど青かと思つてわたつてしまつて、車にひかれてしまつたかもしれせん。青になつたら、ピポ、ピポ。と音がなる信号機もあるそうです。でも、柳迫のようになんところもたくさんあります。あたしたちは、もし、目が見えない人が、道をわたれなくてこまいていたらどうすればいいか、どんなことができるかを話し合いました。目のふ自由な人がいれば、助けてあげたい。

- 4 「と」は、それぞれ一字にかぞえて、「マスの中」に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいたくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは二きようめに書き、文しようは三きようめの二ばんめのマスから書きましょう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくごときにぎようをかえましょう。
- 3 詩や文は、どのぎようも二ばんめのマスから書き、あたまをそろえましょう。

(月 日 曜日)

と言いました。先生は、
目が自由なだけでいいですか。

と言いました。

耳の自由な人も助けたい。

体が自由な人もいるよ。

と、みんなが発表しました。すると、先生は、

体が自由なだけでいいですか。

と言いました。みんなが静になり、考えま

した。先生は、

こまわて、いそうながいたら、だれにでも

だいじょうぶですが、と声をかけることが

大切です。

と言いました。先生もこまわて、いるときに、

だいじょうぶと聞かれて、ほっとしたそ

うです。わたしは、こまわて、いる人を見かけ

たら、勇気を出して声をかけようと思います。

福祉のことが少しずつ分かってきました。

これから、皆来館に行ったり、にんちしように

について学習したりするそうです。福祉につ

いても、勉強したいです。

- 4 とは、それぞれ一字にかぎえて、一マスの中に書きましょう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましょう。

(不許複製)

